



K.UNO NEWS LETTER

Vol. 15

ケイウノは全国に店舗展開するジュエリーのオーダーメイドブランドです。
この広報通信では、毎月1回、ケイ・ウノのジュエリーやオーダーメイドに関する
さまざまなヒト・コト・モノの情報をお届けします。



二人の想いを込めたリングが
過去と未来をつなげてくれています

今回のお客様は、ご婚約・ご結婚の時オーダーメイドリングのご注文がきっかけでケイウノを訪れてくださったSさん、Mさんご夫妻。その後も、旦那様から奥様にプレゼントするネックレスのオーダーをいただいたり、ご縁を

深めていただいています。
取材当日、おつくりいただいたリングやネックレス、そして手作りのウェルカムボードまでご持参くださったお二人に、たくさんのお想い出と共に楽しいお話を伺うことができました。

最大の魅力は“買う”のではなく “一緒につくる”こと

— 今日はお越しいただき、ありがとうございます。まずはお二人とケイウノの出会いについて教えていただけますでしょうか。

S きっかけはマリッジリングでした。こうした業界に詳しくなかったわけではなく、これと決めたブランドがあるわけでもなかったのですが、まずは全体の情報収集からということで、銀座にある結婚情報誌が運営しているカウンターに行っただけです。

M あれこれ見ていたうちに、ふと「オーダーメイド」という言葉に目が止まって。リングのデザインを描くところから見せていただけのらしいということで、早速ケイウノ銀座本店にお邪魔しました。

— きっかけは「オーダーメイド」という言葉だったと。

S そうです。マリッジリングって一生身につけていくわけだし、とても大切な存在です。なので、なぜそれを選んだのか、つくる理由、選ぶ理由がちゃんとほしいなと。

M 実を言うと、どうしてもマリッジリングにこだわっていたわけではないんです。二人ともいわゆるブランドものには興味がなくて。ただ、何かおそろいのものはほしいと思っていて、時計でもいいかな、なんて話していた時期もありましたね。



小学校の保健室の先生というキャリアを持つMさん

S だから、ただ「買う」だけとはちよつと違うなと思って。オーダーメイドと一緒にデザインを考えられるということにすごく惹かれました。

— 銀座本店にいらしていただいて、いかがでしたか？

S ひとめばれでした（笑）。もう、すぐケイウノさんでつくりたい！って。結局、他のショップは回りませんでした。

M お願ひすることになった決め手は、自分たちの想いが自由に込められるということ。ありものから選ぶのではなくゼロからつくり上げていけるので、私たちが製作プロセス自体に参加ができることはとても魅力的。絶対ここだと思います。

意外にこわくなかった “オーダーメイド”

— これまでもオーダーメイドで何かをつくられたことはあったのでしょうか。

S いや、二人とも初めてでした。なので、内心はちよつと緊張していて（笑）。イメージとしてもつと高いものを覚悟していたんですが、意外にそうでもなくてほつとしたというか…。

M 最初に予算をお伝えできたこともよかつたですね。最終的にいくらになるのか、わからないままでは不安ですし。

S 話しやすい雰囲気をつくってくださったこともあつてぎつくばらんにお話ができました。しかも、その予算に合わせてリングの太さやダイヤの大きさを調整していただけたとわかつて一安心。なので、値段の話をしたのは最初だけであとはデザインに集中することができました。

— マリッジリングには花びらや太陽、月などがデザインされています。これは最初から入れようと思われていたんでしょうか。

M いえいえ、デザイナーさんが上手に話を引き出してくださつて…。いろいろな話をしているうちに、自分たちでも思っていなかつたことに気づかせていただいたこともありましたね。



左はお二人のマリッジリング。右のエンゲージリングとは重ねづけもできるデザインに



広告関係の仕事をしているSさん

— それは例えば。

M リングに小さなブルーダイヤモンドがあしらわれているんですが、この「青」を用いたのは初めてのクリスマスプレゼントがお互いに青いものだったから。私が彼に贈つたのは青いボトルの香水で。

S 僕からはブルーのチャームがついたネックレスでした。でも、そんなことすっかり忘れていたというか、考えたこともなかつたんですが、デザイナーさんに言われて気がつきました。

— デザインしている過程を通して、お二人のこれまでをふり返られたということでしょうか。

S そうです。ただ、僕たちからこれとこれを入れてくださいとお願ひしたのではありません。何となく好きなものやお互いのことを話している間に、デザイナーさんがサラサラと絵にしてくださつて。

M 太陽と月のモチーフもそうです。太陽は明るくてすてきだけれど、時に元気のない人を枯らしてしまうほどパワーが強いことがあるから、月の優しい光も必要だよねと話して。

S どんな時も太陽の明るさと月の優しさ、両方持つていられるようにという想いを込めました。



愛くるしい娘さんは今年で3歳

M そんなことを自由に話しながら、お茶をいただいて、ドラジェ(チョコレートのお菓子)をつまんで…。今思えば、楽しいひとときでした。

— リングをつくるプロセスも楽しんでいただいたようですね。

S いや、もう本当に楽しくて！
あと、緑色のモックっていうんですか。あれができてきた時は感激しました。それまでにかけた時間が実際の形になって目の前にある。ちよつと興奮しました(笑)

M マリッジリングって、女性だけが楽しんで男性はそうでもないケースが多いと耳にしたこともあるので、大丈夫かなと思っていました。お互い絵を描くのが好きだったこともあって、二人で一緒に楽しめたというのもよかったですね。

“手とリング”は もっと主役になっていい

— ここでウェルカムボードを拝見します。ケイウノでつくっていたリングをこんな風に取り上げてくださることに感謝です。

S エンゲージリング、マリッジリングどちらも、つくるプロセスから完成したものまですべて含めて僕たちなんだという想いが強かったんです。自分たちが好きなものやこれから共にこんな風に生きていきたいとか、あらゆることがこのリングに込めることができたので。

M 自分たちのことを、大勢に改めて話す機会ってそうはないと思うんです。なので、結婚式という機会に立ち会ってくださる方々に、私たちのことをお伝えしたいという気持ちがありました。

S あと、結婚式での指輪の交換って遠いから交換しているところはわかるけど、細かい部分は絶対見えないですね。それはもったいないと。せつかなので、もつとちゃんと見てもらいたいと。

— ありがとうございます。つくらせていただいた側としては冥利に尽きます。

S ウェルカムボードだけでなく、席次表にも入れたりして、いろんな場所ですべて使わせていただきました。

M ただ、あとから気づいたんですが、

一つだけ心残りなことがあって…。

— え。それは気になります。何でしょうか？

M リングの写真を撮っておかなかったこと。結婚式の写真はたくさんあるんですが、リングそのもののやリングをしている手の写真がないんです。写っている小さくて細かなところがわからなくて。

— 確かにそうですね。

S デザイン画やモックなど、プロセスでの写真は結構撮っていたんです。なのに、肝心の完成形の写真は一枚もない。でも今さら撮直すことはできません。気づいた時は結構ショックでした。



結婚式の準主役ウェルカムボード

M リング自体だけでなく、手もね。変わりますから。結婚式の時ってエステに行ったり、丁寧にネイルをしていただいたりしますよね。だからベストな手だったのにそれがないんです(笑)。

— それもあって、お仕事としてのご提案もいただいたんですね。

S そうなんです。僕たちのリングのように時間をかけてつくったものを、完成した時の最高にキレイな形にして残しておくのってすごくいいと。先ほど話したようにデッサンやモック、つまり始まりと途中はあるのに最後の完成形がない。そして彼女が言ったようにその時の“手”も残っていない。これはもったいないなと。



リングの説明を施した席次表。大好評だったとか

出産のサプライズプレゼントは マリッジリングとおそろいのネックレス



Mさんが勤めるフォトスタジオで提供している
赤ちゃんを等身大で撮るサービス

M 今、私が勤めているフォトスタジオで赤ちゃんを等身大で撮るというサービスがあつてご好評をいただいています。それと同じコンセプトで、家族の手を実物大の大きさに撮影して形に残すということから始めています。ケイウノさんにぴったりだと思つて。何かコラボレーションできたらと言つて、彼から提案させていただいているところです。

— ご出産の時にも、マリッジリングと同じモチーフで記念のネックレスをつくっていただいたんですね。

S 彼女が初めての出産の時、サプライズのプレゼントで。何がいろいろ考えたんですが、リングとおそろいだったら絶対いいなと。自分たちで考えたデザインです。



リングとおそろいのネックレス。
8枚の花びらは8月生まれのお二人に因んで

M プレゼントされたのは娘が生まれる直前で。家族が増えても結婚した初心に返つてということで、ビックリしたけどとてもうれしかったですね。

— 最後に、改めてオーダーメイドでつくっていただいたことについてお伺いできますでしょうか。

S リングをつくるためにお互いにいろんな話をしたこと、思い出した気づかされたりしたこと。そして、それをデザインに込められたことは本当に価値があると思います。日常生活の中で、ふと手を見れば僕たちの想いがそこにあるわけですから。

M 私も同感です。いつでも初心に戻れるというか、思いつけるといいますか。



リングを通してつながるご家族。これからも幸せに

お互いの大事な軸がぶれない気がします。

今回取材の話をきっかけに、改めて彼と話をしているうちに次の子どもの名前を思いついて(笑)

上の娘もリングにあるモチーフに因んでいるんですが、次もそうなるねと。

S そういえば、僕たちの最初のプレゼントに因んで入れてもらったブルーダイヤモンドが、偶然にも娘の誕生石だったんです。これにはちょっと驚きました。自分たちがこれまで築いてきたことが、リングを通してこれからつながっていくようで不思議でもあり、楽しくもありです。

— ありがとうございます。これからもどうぞお幸せに！

4月の誕生石 「ダイヤモンド」

4月の誕生石ダイヤモンド。
0.1カラット以下の小粒のものはメレダイヤと呼ばれています。
写真は名前の頭文字「L」の字にちょこんと座る猫のペンダントトップ。
いつも出窓にたたずみ、家族の様子を眺める姿をそのままに。
メレダイヤの柔らかな輝きが愛らしさを引き立てています。

